東根市立第一中学校　学校だより
One　たった1つの自分の母校
No. 2　2023. 5. 22.
校長　伊藤　裕

大切なのは“ルールを守ること”ではない！

「春の交通安全運動期間」に学区内の大きな交差点に出向いて、交通指導員さん方のお話を伺ってきました。ある指導員さんはこうおっしゃっていました。「一中生は横断歩道でちゃんと自転車から降りて渡ってるから立派だよ。」一中生が褒められるともちろんうれしいのですが、自転車で通りがかった一中生を見て「？」と感じたことがあります。

◇自転車は「軽車両」である　（降りて引いていれば歩行者）　（道路交通法）
◇「横断歩道は歩行者の横断のための場所ですので、横断中の歩行者がいないなど歩行者の通行を妨げる恐れのない場合を除き、自転車に乗ったまま通行してはいけません。」
（交通の方法に関する教則）

本校では「横断歩道を渡るときは自転車を降りて」と推奨していますが、その根拠は上の法律等です。「自転車に乗っている時は『車両』」「自転車を引いているときは『歩行者』」。横断歩道を渡っているときのみなさんは、いったいどっちなのでしょう？

自転車に乗った一中生が、私のいる交差点に差し掛かりました。自転車で進んできたスピードのまま横断歩道に入り、自転車から跳び降り、駆け足で自転車を引いて横断歩道を渡って行きました。「車両」として横断中の歩行者の安全に気を配っていたでしょうか？または「歩行者」として交差点を右左折してくる自動車に注意を払っていたでしょうか？　どちらも”No”です。横断中の歩行者も、前後左右の自動車も、ほとんど見ていませんでした。

「道路交通法」は交通事故を防ぐためにあります。ですから*大切なのは「法律を守ること」ではなく「交通事故から自分と他人の身を守ること」*です。この時の一中生は「歩行者に注意を払う」ことも「自動車に注意を払う」ことも不十分で、『降りて自転車を引いて横断歩道を渡る』ということばかり気にしているようでした。つまり、***「ルールを守ることにとらわれて、かえって危険な状態にある」***なんていうおかしな状態です。どう思いますか？

私たちの周りには「ルール」とか「法律」とか、数多く存在します。学校にもたくさんの「きまり」がありますが、大切なのはそれらを「守ること」ではありません。「なぜそのルールがあるのか」を考えれば、大切なことが見えてくるはずです。「ルール」について考えることを通して、そこにある「大切なこと」（物事の本質）を見極める力を身につけましょう。